



ひなどり

園だより 1月号
令和2年1月8日
新潟市立新津第三幼稚園



最善の成長のためには…

園長 間嶋 哲

新年あけましておめでとうございます。2020年、令和2年が始まりました。

今年は、記念すべき東京オリンピックが開催される年です。子どもたちが大人になったとき、きっと「そういえば小さかった頃、東京オリンピックが盛り上がっていたなあ」と、思い出話をたくさんしてくれることになるでしょう。

ところで、この冬休み中、幼稚園教育の目標について、改めて調べてみました。以下に引用するのは、幼稚園教育要領第一章の冒頭です。

人間の成長発達には、一定の順序を踏みながら、継続的に進行する。もとより個人差や生活環境の相違があるから、たとえ同年齢の子どもであってもその成長発達の具体的な姿には差異がある。また、どんな人でも、赤ん坊からすぐ大人になるのではなく、幼児の時代、少年の時代を経て青年や成人になるという段階をたどるのである。そして前の段階における成長のよしあしは、あとの成長に大きく影響する。しかも、この成長の過程にはくり返しが無い。だから、人間のよりよき成長発達を望むならば、心身発達の各段階において、最善の成長が促されるように努力する必要がある。

ことに人間の一生において、幼児期の教育がいかに重大であるかということは、「三つ子の魂百まで」とも言われるように、昔からの常識になっている。発達心理学や教育心理学の研究は、この常識をいっそう科学的に裏づけている。したがって、幼児期の教育を受け持つ幼稚園は、特に子どもの性格形成の上からは非常に重要であるといわなければならない。

これらの文章は、もちろん私たち幼稚園教育関係者に向けてのメッセージではありますが、見方を変えれば、親へ向けての子育ての指針にもなります。「個人差や生活環境の違いを受け入れ、他との比較をしないようにしよう」ということも読み取ることができます。

我が子は、他の子どもと様々な面が違って当たり前。だからこそ、毎月の誕生会で語っていたように、小さな頃のエピソードも人それぞれです。だからこそ、我が子のよさを一番知っているのも、間違いなく保護者の皆さんです。最善の成長を促す一番の近道は、個々の子どものよさをしっかりと理解し、さらにそのよさを伸ばしていくことなのです。

当園は、新潟市立幼稚園10園の中で、先進的な教育研究と人材育成について、モデル園として今後残っていく園です。これまで幼稚園版通知表『成長のあしあと』や、幼稚園版休み時間『わくわくふれあいタイム』を導入し、一定の成果を収めてきました。今後は、それらの課題を明らかにするとともに、さらに、子どもたちにとってより良いことを追究し、個々の子どもに応じて最善の成長を促すことができる幼稚園であり続けたいと思っています。

今年も、どうぞよろしくお願ひ致します。

